

日本マラソンの父
金栗 四三



女子教育を確立
新穂 登免

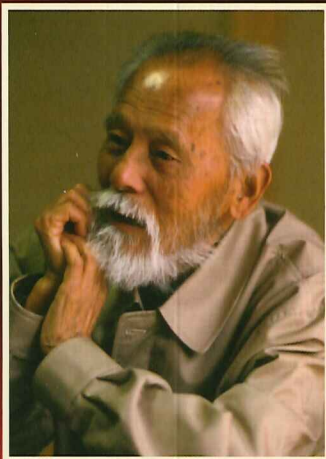


玉名市初代市長
橋本 二郎

玉名市名誉市民

「玉名市名誉市民」は、広く社会文化の向上発展に寄与し、

市民が郷土の誇りとして尊敬する人に対して贈られる称号です。



日本のおじいちゃん
笠 智衆



農政に貢献
浦田 勝



美智子皇后のデザイナー
植田 いつ子



大学と新幹線を実現
松本 虎之助



玉名市立歴史博物館

〒865-0016 熊本県玉名市岩崎117 TEL 0968-74-3989 FAX 0968-74-3986
URL <http://www.city.tamana.lg.jp/> (こころピアのバナーをクリック)

金栗 四三 (かなくり しぞう) 1891~1983

日本マラソンの父

玉名郡和水町に生まれ、のち玉名市小田の池部家の養子となる。東京高等師範学校に進学し、校長嘉納治五郎の教育方針のもと、高師の本科に進むと徒歩部に入部。明治45(1912)年マラソン選手として第5回ストックホルムオリンピックに日本人初のオリンピック出場を果たす。アントワープ・パリと三度のオリンピックに参加した。

オリンピック後は、暑中訓練や高地トレーニングなど独自のトレーニングを研究。マラソンシューズの元祖となる「金栗足袋」の開発に力を注ぎ、多くのマラソン選手が「金栗足袋」を履いて走った。日本初の^{てんと}駅伝^{てんと}京都記念東海道五十三次駅伝競走やお正月の風物詩となった箱根駅伝を始める。下関―東京間、樺太(サハリン)―東京間、九州一周を踏破、全国走破を達成する。

女子体育の重要性を指摘し女子体育の振興に努め、戦後すぐ熊本県体育協会を作り県体育界をリード、県民体育祭を実現するなど、生涯にわたって日本のスポーツの振興・発展に力を注いだ。

昭和58(1983)年11月13日死去 92歳

- 昭和27(1952)年 熊日社会賞受賞
- 昭和28(1953)年 西日本文化賞受賞
- 昭和30(1955)年 紫綬褒章受章
- 昭和32(1957)年 熊本県近代文化功労者として顕彰
- 昭和33(1958)年 朝日文化賞受賞
- 昭和37(1962)年 玉名市名誉市民第1号
- 昭和39(1964)年 勲四等旭日小綬章受章
- 昭和44(1969)年 県立玉名高等学校に銅像除幕
- 昭和58(1983)年 従五位銀杯下賜



第5回オリンピックストックホルム大会開会式入場行進

新穂 登免 (にいほ とめ) 1872~1971

教育者 女子教育を確立

熊本市中央区坪井に生まれる。明治29(1896)年私立尚綱女学校速成裁縫科を卒業。熊本高等小学校裁縫主任となり、小学校では初の試みとなる一斉教授法を取り入れ称賛される。日本裁縫教授界を一新する教授法の啓発に東奔西走し、『裁縫教育の母』と称される。

新穂義邦氏と結婚後、阿蘇郡小国の実科高等女学校に赴任。大正14(1925)年高瀬高女卒業生の強い要望により、高瀬に帰って塾を開くことを決意。個人の住宅を借り、生徒数33名からの出発であったが、玉名実践女学院を設立した。お針の技術ばかりではなく、一人の人間・女性としての教養を積み重ねればと、修身や国語や数学等を入れた教育を実践した。

女学院は玉名実践女学校、玉名女子職業学校、熊本県玉名高等家政女学校、玉名家政高等学校と改称。昭和26年学校法人玉名白梅学園となり、昭和38年玉名女子高等学校と校名変更、現在にいたる。昭和21~27年、昭和28~32年2代・4代校長として8年、初代理事長を亡くなるまで20年務めるなど、生涯において女子教育の育成に尽力する。

昭和46(1971)年1月13日死去 99歳

- 昭和24(1949)年 文部大臣表彰
- 昭和32(1957)年 熊日社会賞受賞
- 昭和33(1958)年 藍綬褒章受章
- 昭和35(1960)年 熊本県近代文化功労者として顕彰
- 昭和37(1962)年 玉名市名誉市民第1号
- 昭和40(1965)年 勲四等宝冠章受章
- 昭和42(1967)年 玉名女子高等学校に胸像建立



熊日社会賞受賞

橋本 二郎 (はしもと じろう) 1904~1977

政治家 玉名市初代市長

玉名市滑石に生まれる。早稲田大学卒業。昭和8(1933)年滑石村村会議員となり、滑石村村長、熊本県議会議員を経て、昭和21(1946)年衆議院議員となる。

昭和29(1954)年近隣12町村の合併で誕生した玉名市の初代市長に選ばれた。大玉名市の建設を提唱し、希望と信頼の明るい市政を目指し、5期19年その職にあり、新市の発展に尽力する。玉名市政だより創刊、玉名市消防本部設置、市庁舎建設、国道208号線町部完成、蛇ヶ谷児童遊園地完成、高瀬大橋架替工事、玉名市農業協同組合発足、白石堰完成、農協会館・商会館完成、市民憲章制定など市政の基礎作りに奔走した。町村合併及び新市町村建設功労者・河川事業功労者として二度の総理大臣表彰に輝く。有明広域市町村圏協議会会長・玉名平野土地改良区初代理事長を兼ね、水利事業などに貢献する。

昭和52(1977)年3月14日死去 72歳

- 昭和32(1957)年 総理大臣表彰
- 昭和38(1963)年 2回目の総理大臣表彰
- 昭和52(1977)年 正五位勲三等瑞宝章受章
- 昭和52(1977)年 玉名市名誉市民
- 昭和53(1978)年 玉名平野土地改良区に銅像除幕



執務中の橋本市長(中央)

笠 智衆 (りゅう ちしゅう) 1904~1993

俳優 優

玉名市天水町に生まれる。生家は、玉名市天水町立花の来照寺。玉水小、玉名中(現玉名高等学校)、龍谷大学から東洋大へ転学。大学在学中の大正14(1925)年、松竹キネマ蒲田撮影所の俳優研究所研究生募集に合格したが、その年の7月父死去のため帰郷。一時住職を継いだ。翌年には住職を兄に譲り撮影所に復帰。大部屋俳優として約10年を過ごした。

昭和11(1936)年小津安二郎作品「一人息子」での老け役が認められ、以後小津作品を中心に数々の名作に出演。出演作品に、小津作品で初めての主演「父ありき」(昭和17)、「晩春」(昭和24)、「麦秋」(昭和26)、「東京物語」(昭和28)、「秋刀魚の味」(小津安二郎最後の作品、昭和37)などがある。

昭和40年NHK朝の連続テレビ小説「たまゆら」に主演、初のテレビ出演となる。昭和44年公開の山田洋次監督作品「男はつらいよ」に、御前様(和尚)役として出演。「日本のおじいちゃん」として親しまれた。「男はつらいよ 寅次郎の青春」が遺作。

平成5(1993)年3月16日死去 88歳

- 昭和24(1949)年 毎日映画コンクール男優演技賞受賞
- 昭和27(1952)年 ブルーリボン賞助演男優賞受賞
毎日映画コンクール男優演技賞受賞
- 昭和42(1967)年 紫綬褒章受章
- 昭和46(1971)年 毎日映画コンクール男優助演賞受賞
- 昭和50(1975)年 勲四等旭日小綬章受章
- 昭和56(1981)年 熊本映画祭で特別功労賞受賞
- 昭和61(1986)年 放送文化賞受賞
- 昭和62(1987)年 菊池寛賞・山路ふみ子賞功労賞受賞
- 昭和63(1988)年 東京都文化賞受賞・天水町名誉町民
- 平成 2(1990)年 川喜多賞受賞・熊本県近代文化功労者として顕彰
- 平成 3(1991)年 毎日映画コンクール特別賞受賞
- 平成27(2015)年 玉名市名誉市民



高瀬駅にて

浦田 勝 (うらたまさる) 1925~

政治家

玉名市岱明町野口に生まれる。九州学院高校卒業。昭和34(1959)年熊本県議会議員に初当選、連続6期務める。昭和51(1976)年第48代熊本県議会議長に就任する。

昭和58(1983)年参議院議員に初当選。平成4(1992)年2回目の当選を果たす。その間、昭和62(1987)年労働政務次官、平成6(1994)年農林水産常任委員長、平成7年決算常任委員長、平成9年災害対策特別委員長の要職を歴任、国の発展に尽力する。

昭和49年から玉名平野土地改良区理事長。平成5年からJAたまな農業協同組合代表理事会長、平成11年からは熊本県果実農業協同組合連合会代表理事会長として全国に熊本みかんを奨励、平成16年日本園芸農業協同組合連合会代表理事会長、平成17年日本果実種苗協会会長として、現在も農政の発展に貢献する。

平成10(1998)年 勲二等旭日重光章受章

平成17(2005)年 岱明町名誉町民

平成27(2015)年 玉名市名誉市民



熊本みかんを奨励

植田いつ子 (うえだ いつこ) 1928~2014

服飾デザイナー 美智子皇后のデザイナー

玉名市河崎に生まれる。熊本県立高瀬高等女学校卒業後、熊本女子師範学校に入学した夏、昭和20年終戦を迎える。昭和23(1948)年「美しいものを創る仕事をしたい」という強い思いから上京。桑沢デザイン研究所で学んだ後、銀座の高級洋裁店「ビジョン」でデザイナーの道を歩み始める。昭和31(1956)年、独立して赤坂に「植田いつ子アトリエ」を構える。昭和38年初めてのヨーロッパ旅行で大きな衝撃を受け、あらためて日本人であることを自覚し、日本女性の美しい心に見合った服づくりをしようと考え。昭和50年パリでファッションショーを開く。

昭和51(1976)年皇太子妃殿下美智子(現皇后)さまのデザイナーを拝命、平成24年まで38年間デザイナーを務める。その間、皇后さまは、国際ベストドレッサー賞を3回に亘って受けられた。平成25(2013)年玉名市立歴史博物館ころろピアに植田いつ子資料を寄贈、「植田いつ子の世界展」を開催した。

平成26(2014)年6月3日死去 85歳

昭和50(1975)年 第19回日本ファッション・エディターズクラブ賞を受賞

平成 9(1997)年 桑沢特別賞受賞

平成15(2003)年 熊本県近代文化功労者として顕彰

平成27(2015)年 玉名市名誉市民



高島 慶 撮影

松本虎之助 (まつもと とらのすけ) 1930~2000

政治家 玉名市長

玉名市伊倉に生まれる。松本家は、玉名郡伊倉町で「松屋」(大正3年創業)の屋号で海苔の産地問屋を営む。昭和23(1948)年株式会社松本商店を設立、昭和41(1966)年浦島海苔株式会社と社名を変更。

父虎次郎から会社を引き継いだ虎之助は、浦島海苔(株)代表取締役社長を務めながら商工業の発展を願い、昭和54(1979)年玉名商工会議所会頭に就任、玉名商工会館の新設に奮励する。

昭和58(1983)年玉名市長に当選、4期16年にわたり市政の発展に尽力する。公設民営の九州看護福祉大学の設立や九州新幹線玉名駅設置に大きく貢献。在任中には玉名市総合体育館や天望館・博物館ころろピア・武道館・保健センターなどの文化公共施設の建設を成し遂げた。さらに国際交流にも力を注ぎ、米国クラリンド市や中国瓦店(がぼてん)市との友好都市の締結をはたした。

平成12(2000)年1月11日死去 69歳

平成10(1998)年 九州看護福祉大学に胸像建立

平成12(2000)年 従五位勲四等瑞宝章受章

平成27(2015)年 玉名市名誉市民



平成4年 玉名駅前にて